

## II - 11 有機農業を核とした新たな展開

- 有機農業を、移住・定住施策や農村活性化に活かそうとする地域と連携し、有機農業経営に係る実践的な情報として経営指標(事例)を作成。当該地域で活用するとともに、他地域にも提供。
- 教育機関と連携して、後継者への有機農業に対する理解醸成を促進。

### ■ 経営指標(事例)の活用

安平町有機農業推進協議会の有機農業者の協力のもと作成。

当該地域で活用

道HPや公益財団法人北海道農業公社、各市町村に提供

道 市町村

担 北  
い 海  
手 道  
セ 農  
ン 業  
タ 公  
ー 社

担  
い  
手  
担  
当  
部  
署

新規参入者

- 新規就農フェアへの参画
- 新規就農相談

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/yuki/kensyuutouroku.htm>

### ■ 教育機関と連携した理解醸成

八紘学園  
(札幌市)

道立農業大学校  
(本別町)

★テーマ「有機農業をめぐる情勢について」講義★

日 時：令和元年12月10(火)  
参加者：38名(生徒)

内 容  
「有機農業」や  
「北海道にお  
ける有機農業  
の現状と推進  
取組」につい  
て講義。



日 時：令和3年2月1(月)  
参加者：20名(生徒)

内 容  
「有機農業」や  
「北海道にお  
ける有機農業  
の現状と推進  
取組」につい  
て講義。



後継者への有機農業に対する理解醸成を促進

# II - 12 販路の確保

- 安定的な販路を確保するため、希望する生産者が販売可能な品目や時期、数量などを情報発信。
- 安定的な販路の確保に向けて、生産者と流通・販売事業者等の商談(マッチングイベント)を実施。

## ■ 有機農産物等の販売情報等一覧(令和2年12月現在)

有機農産物等の販売情報等掲載者一覧						
振興局	市町村	名称又は氏名 (農場名)	販売可能な農産物等	有機JAS 認定の種類	頁	
空知-1	岩見沢市	(株)JAKE	リーフレタス、飼料	○	1	
空知-2	岩見沢市	河端農園	たまねぎ	○	2	
空知-3	岩見沢市	栗沢あおぞら農園	かぶ、ばれいしょ	○	3	
空知-4	滝川市	(有)ノザワ農場	たけのこ	○		
石狩-1	札幌市	(株)ブルーベリー さっぽろ				
石狩-2	札幌市	ヴェール農場	にのみ			
石狩-3	札幌市	ビーマイ倶楽部	スナック			
石狩-4	札幌市	央幸設備工業(株)	赤菜			
石狩-5	千歳市	はるか農園	ケスリー			
石狩-6	千歳市	かねこ農園	かぼ			
石狩-7	千歳市	(株)箱根牧場	ばら			
石狩-8	当別町	すがむら農園	米			
石狩-9	新篠津村	オーガニック農場 森田くん家	ミニ			
渡島-1	函館市	くまさんファーム	ブドウ			
渡島-2	北斗市	ソーシャル・エイ ジェンシー(株)	アスパラ			
渡島-3	森町	(株)みよい	かぼ			
上川-1	士別市	(有)藤田農園	ばら			
上川-2	上富良野町	ビーバーファーム 北川	小豆			
上川-3	上富良野町	Nishio Farm	にのみ			
上川-4	上富良野町	トカブチ(株) カミフラノイ農場	にのみ			
宗谷-1	豊富町	田中牧場	ばれい			
樺太-1	津別町	(有)矢作農場	にのみ			
樺太-2	大空町	(株)大地の MEGUMI	ばら			
十勝-1	帯広市	(株)やぶ田 ファーム	にのみ			
十勝-2	帯広市	ときいろファーム	ハン			
十勝-3	清水町	(有)あすなる ファーム	ハン			
十勝-4	芽室町	遠藤農園	にのみ			

整理番号	空知-1【有機JAS】	所在地 (又は住所)	電話番号	FAX番号	E-mail
名称 (農場名)	ジェイク 株式会社JAKE	〒068-0846 岩見沢市下志文町24-11	0126-26-3340	0126-26-3340	a.o@jake-i.com
代表者	にしむら こういち 代表取締役 西村公一				
担当者	にしむら こういち 西村公一				
URL					

販売	品目(作物)名	品 種 等	令和3年度 販売可能量	取扱時期	有機JAS 取得可否	備 考
可	リーフレタス	(有機)グリーンウェ ブ、レッドファイヤー	5,000 kg	1月～12月	○	
可	飼料 (有機子実コーン)	P9025	20,000 kg	11月～10月	○	
能						
な						
農						
産						
物						
等						

【生産者からのメッセージ】  
弊社は、15haの農地で有機JAS認定を取得しております。そのうち施設栽培が21aあり、品目にもよりますが周年栽培が可能で、ある程度計画生産ができます。これまでの栽培実績は、有機中玉トマト、有機ベリーリーフ、有機リーフレタス、有機エディブルフラワーを栽培していました。有機リーフレタスの周年出荷は日本でも、数少ない生産体系です。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/yuki/kensyuutouroku.htm>

## ■ マッチングイベントの実施

### 平成29年度 開催概要



日 時: 平成29年8月21日(月)～8月23日(水) 3日間  
場 所: 札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)北3条交差点広場  
参加者: 生産者等 8団体 実需者 3団体  
内 容: ・生産者と消費者や実需者を結びつけるマッチングイベント  
・パネル展による有機農業・有機農産物の情報発信

### 平成30年度 開催概要



日 時: 平成30年8月20日(月)～8月22日(水) 3日間  
場 所: 札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)北大通交差点広場  
参加者: 生産者等 7団体 実需者 2団体  
内 容: ・生産者と消費者や実需者を結びつけるマッチングイベント  
・パネル展による有機農業・有機農産物の情報発信

### 平成31年度 開催概要



日 時: 令和元年8月31日(土)～9月1日(日) 2日間  
場 所: 札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)北3条交差点広場  
参加者: 生産者等 5団体 実需者 2団体  
内 容: ・生産者と消費者や実需者を結びつけるマッチングイベント  
・パネル展による有機農業・有機農産物の情報発信

日 時: 令和元年11月15日(金)～11月16日(土) 2日間  
場 所: 札幌ファクトリーアトリウム&ファクトリールーム  
参加者: 生産者等 5団体 実需者 31団体  
内 容: ・生産者と消費者や実需者を結びつけるマッチングイベント  
・パネル展による有機農業・有機農産物の情報発信

## II - 13 理解の醸成

- 消費者の理解を醸成する有機農業パネル展や体験会等を開催。
- 有機農業ネットワークでは、生産者が主体となった消費者向けイベントを開催。

### ■ 各振興局における有機農業ネットワーク活動

#### かみかわ有機農業ネットワークの活動 ～ランチ会～

##### 《開催の概要》

日 時: 令和元年11月26日(火)  
場 所: つくし幼稚園(旭川市)  
参加者: 14名(幼稚園児保護者ほか)



##### 《取組の内容》

かみかわ有機農業ネットワーク会員が生産した有機農産物を使用したお弁当を試食するとともに、会員から有機農業の取組について説明を行い、消費者への理解を醸成。

#### 道南有機農業ネットワークの活動 ～マルシェ～

##### 《開催の概要》

日 時: 令和2年9月6日(日)  
場 所: 函館蔦屋書店(函館市)  
参加者: 15名(出店者ほか)  
購入者数: 約150人



##### 《取組の内容》

道南有機農業ネットワーク会員が消費者との交流を図り、有機農産物のおいしさや魅力を発信するマルシェ。

### ■ 本庁主催による有機農業普及活動

#### 十勝有機ネットワークの活動 ～そば打ち体験～

##### 《開催の概要》

日 時: 令和2年1月26日(日)  
場 所: とかち大平原交流センター(帯広市)  
参加者: 41名(一般消費者31名ほか)



##### 《取組の内容》

十勝有機ネットワーク会員が生産した有機農産物を使用したそば打ち体験を実施し、消費者への理解を醸成。

#### オーガニック学習会&料理教室

##### 《開催の概要》

日 時: 令和2年10月30日(金)  
場 所: 札幌エルプラザ(札幌市)  
参加者: 18名(一般消費者ほか)



##### 《取組の内容》

有機農業生産者による取組説明などの「学習会」や「有機農産物を利用した料理体験」を通じて、消費の理解醸成を図るとともに、有機農産物の購買意欲を高め、需要を喚起。

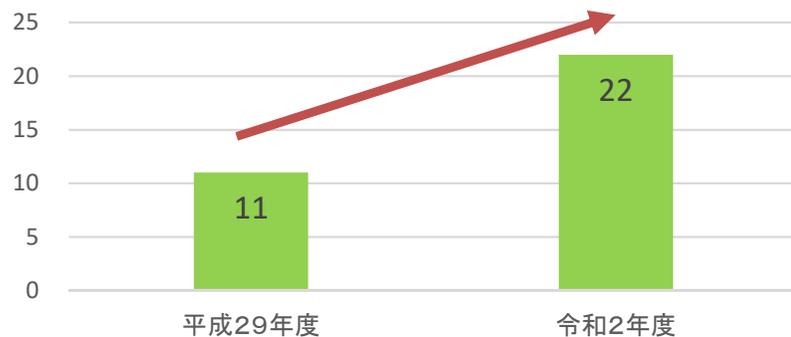
## II - 14 学校給食における有機食品の利用状況について

- 令和2年度の北海道における学校給食に有機食品を利用している市町村は、平成29年度から倍増。
- 有機食品の主な品目は、米、たまねぎ、にんじん、じゃがいもとなっている。

### ■ 有機食品を利用している市町村数

振興局別	平成29年度	令和2年度	増減
空知管内	0	2	2
石狩管内	2	3	1
胆振管内	1	1	0
渡島管内	0	1	1
上川管内	3	5	2
宗谷管内	1	0	-1
オホーツク管内	3	4	1
十勝管内	1	5	4
釧路管内	0	1	1
合計	11	22	11

取組市町村数



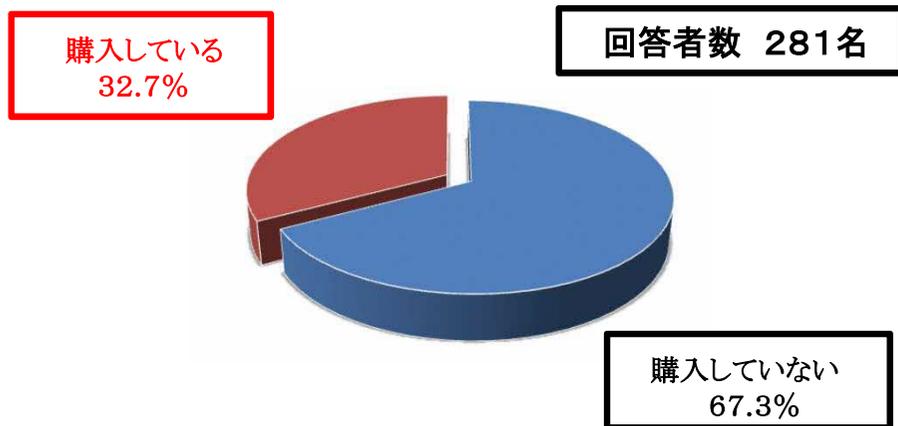
### ■ 取組市町村と主な品目(全体に占める割合) (R2年(2020))

- 【空知管内】
  - 新十津川町 米(0.8%)
  - 雨竜町 米(0.8%)
- 【石狩管内】
  - 北広島市 にんじん、じゃがいも(1割程度)
  - 当別町 じゃがいも、きゅうり、トマト、アスパラ(1割程度)
  - 新篠津村 たまねぎ、にんじん、じゃがいも(全量)等
- 【胆振管内】
  - 安平町 にんじん(約10%)、じゃがいも(約8%)等
- 【渡島管内】
  - 福島町 にんじん、じゃがいも(2割)、しいたけ(全量)
- 【上川管内】
  - 士別市・和寒町 つるむらさき(全量)、おかわかめ(全量)等
  - 名寄市 米(全量)
  - 当麻町 たまねぎ、にんじん、ジャガイモ等(年数回)
  - 剣淵町 米(全量)、味噌(全量)、たまねぎ(概ね半分)等
- 【オホーツク管内】
  - 網走市 じゃがいも、長ネギ(1割以下)
  - 津別町 たまねぎ、にんじん、長ネギ(1割以下)
  - 興部町 有機牛乳(4日間)
  - 大空町 じゃがいも、アスパラガス(少量)
- 【十勝管内】
  - 帯広市 にんじん(34%)、たまねぎ(8%)等
  - 幕別町 たまねぎ(17.3%)、白菜、キャベツ(6.6%)等
  - 広尾町 十勝マッシュ水煮<加工品>(1割未満)
  - 士幌町 にんじん(6%)
  - 鹿追町 小松菜、水菜(2~3割)
- 【釧路管内】
  - 白糠町 じゃがいも(1回)

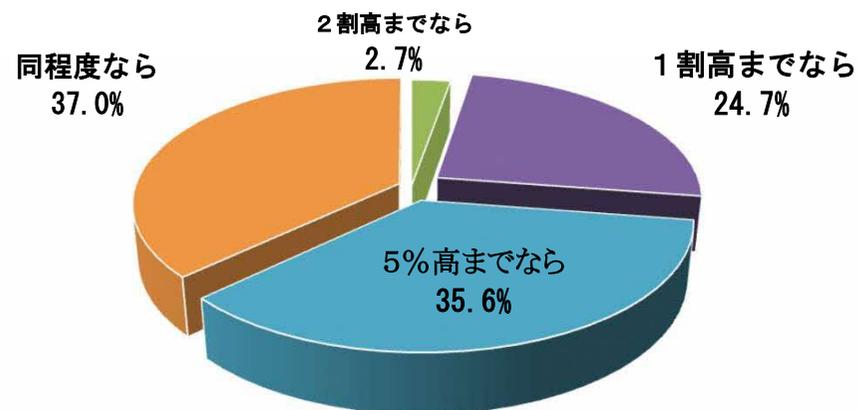
## II - 15 消費者アンケート調査(1)

- 有機農産物を購入していると回答した消費者は32.7%。有機であっても低価格を求める消費者が多い。
- 有機食品の販路は量販店をはじめとして多様化している。

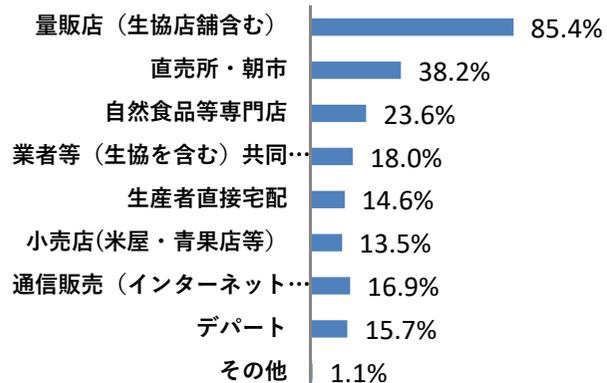
### ■ 有機農産物の購入



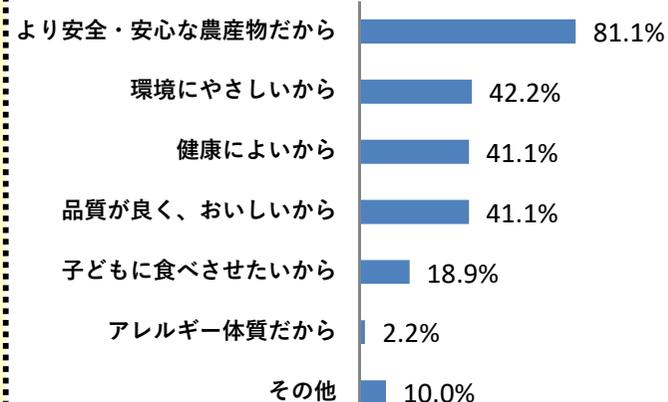
### ■ 一般農産物と比較しての有機農産物の購入価格帯



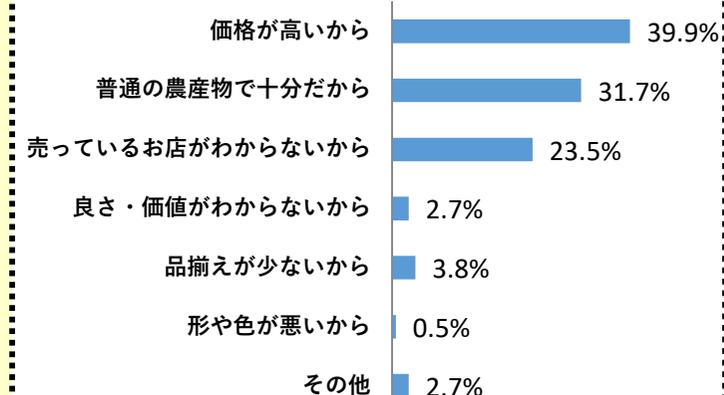
### ■ 有機食品の購入



### ■ 有機農産物を購入する理由



### ■ 有機農産物を購入しない理由

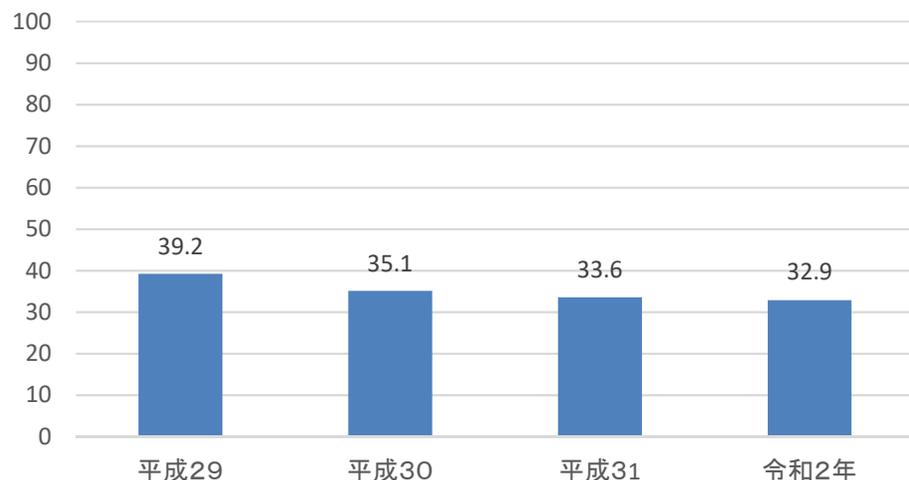


## II - 16 消費者アンケート調査(2)

- 有機農産物等・有機JASマークに対する認知度は約50%で推移している。一方「有機農業により生産された農産物」に対する理解度は、平成29年度39.2%、平成30年度以降はほぼ横ばいで推移しており、有機農業・有機農産物等の消費者への理解促進が必要。

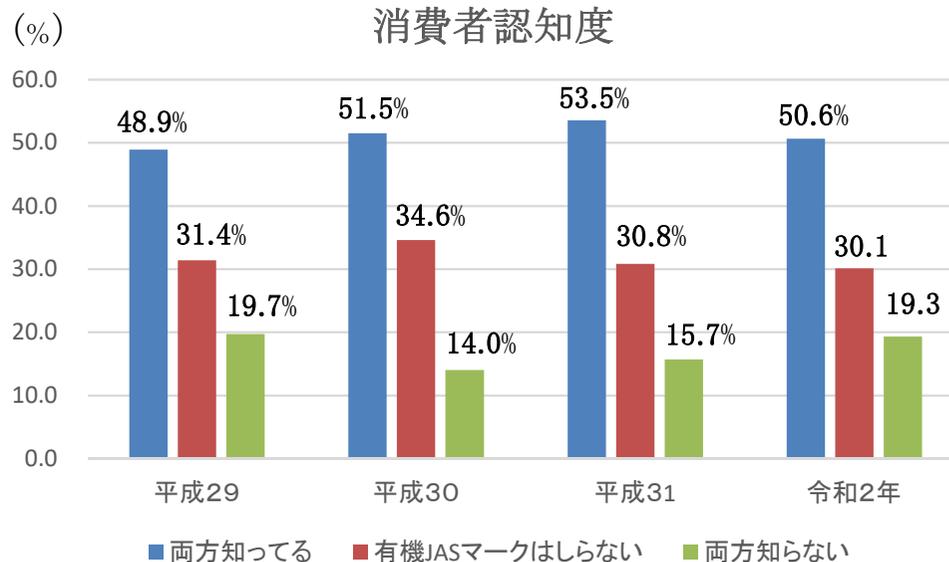
### ■ 有機農業により生産された農産物に対する消費者理解度

有機農業に対する理解度



### ■ 有機農産物等・有機JASマークに対する消費者認知度

消費者認知度



#### 【参考】有機農業推進法における有機農業の定義

有機農業とは、

- ① 化学的に合成された肥料や農薬を使用しない
- ② 遺伝子組換え技術を利用しない

ことを基本として、環境への負荷をできる限り低減する農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。(法第2条)

#### 【参考】有機JASマークについて(農林水産省ホームページより)

- ・有機食品のJAS規格に適合した生産が行われていることを登録認証機関が検査し、その結果認証された事業者のみが有機JASマークを貼ることができます。
- ・この「有機JASマーク」がない農産物と農産物加工食品に、「有機」、「オーガニック」などの名称の表示や、これと紛らわしい表示を付すことは法律で禁止されています。

# II-17 第3期計画の目標指標と実績

## ■ 第3期計画の目標指標と実績

項目	現 状	実 績 (2020年度)	考 察
	目標 (2021年度)		
有機農業の取組面積	5,000ha	4,817ha (2020年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状5,000haから減少したのではなく、国の調査手法の統一に伴う再算定によるもの。計画策定時の平成28年度の現状にあたる面積は3,746haであり、実績は28%増となっている。</li> <li>ただし、国が基本方針で示した63,000ha（2030年）や、みどりの食料システム戦略の100万haから見ると、現状の取組面積は大幅に増やす必要。</li> </ul>
	6,500ha (30%増)		
有機農業に対する認知度	30%	32.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業の定義を、アンケートの選択肢から正しく答えられた人の割合は、5年前から変わっていないという結果。有機農産物等や有機JAS認証マークの認知度は50%。</li> <li>認知度の向上のためには、一層のPRが必要。</li> </ul>
	50%		

# II-18 次期計画の策定に向けて

○ 有機農業の更なる普及・推進に向け、これまでの取組を点検・評価しながら、地域や関係者との意見交換、道民からの意見募集、北海道食の安全・安心委員会での審議等を経て、次期計画を策定。

## ■ 次期計画の方向性

基本的な推進方針		現状と課題	展開方向のキーワード（案）
生産面	有機農業の取組拡大	有機農業取組面積（第3期）目標6,500ha に対し、令和2年度面積は4,817haにとどまる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業ネットワークの充実</li> <li>新規参入・転換の促進</li> <li>国の支援制度の活用促進</li> <li>有機農業技術の向上</li> </ul>
	有機農業技術の開発・普及	有機農業は、栽培技術の習得が難しく、一層の普及や技術開発が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術開発</li> <li>指導者への支援</li> <li>有機農業者への指導・情報発信の充実</li> </ul>
消費面	有機農産物の販路の拡大	有機農業の取組面積拡大には、有機農業者と流通・販売業者を結びつけるなど、安定的な販路の確保が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通・販売業者への働きかけ</li> <li>有機農業者と流通・販売業者の結びつき</li> </ul>
	有機農業への理解促進	消費者アンケート調査結果では、有機農産物等・有機JASマークに対する認知度50.2%、有機農業により生産された農産物に対する理解度は第3期目標50%に対し32.9%であり、継続して消費者への理解促進が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>PR活動</li> <li>地産地消や食育活動との連携</li> </ul>